

## 低所得世帯の家計と生活リスクの準備状況に係る考察

谷口 豊 大塚忠義

### 報告要旨

低所得世帯は相対的に生活リスクの顕在化の家計への影響が大きく、生活リスクに対しての準備が必要であると考えられるが、低所得世帯は生命保険の加入率が低く、生活リスクの準備ができていないのが現状である。全労済協会の「共済・保険に関する意識調査結果報告書（2019年版）」では、低所得の勤労者世帯を主な対象として、生活リスクへの保障意識や共済・保険の加入実態を分析した。報告書では、共済・保険への加入の有無により生活リスクに対する保障意識が大きく異なる点が明らかになったとし、共済・保険の未加入者には本来保障が必要であるにもかかわらず脆弱な世帯が存在すると警告している。このような世帯に対しては、生活リスクに対する準備の啓蒙が重要となる。本稿の目的は、報告書で問題提起された生活リスクに対する準備を行っていない世帯、すなわち保険・共済未加入世帯に対し、準備を行わない要因を特定することである。

分析の結果、生活リスク顕在化時の費用の不安が少ない世帯は、生活リスクを過小評価している傾向にあり、さらにリスクを過小評価している世帯は、保険に関しては営業職員に相談せず、また共済に関しては家族に相談しない傾向にあり、結果保険・共済に加入していないことが確認できた。